⑧【複数年度（2年目）】多様なニーズに対応し、新たな賑わい創出に資する道路空間利活用の社会実験（北海道札幌市）

1. 実験概要、留意すべき項目

- 本実験区間の現状及び課題として、①歩行者が快適に休憩・滞留できる環境が不足していること、②歩道側の車線に停車車両が長時間存在するなど道路交通機能が低下していること、③歩行者と自転車が錯綜し歩行者の安全性が低下していることが挙げられる。
- 上記の課題解消に向けて、多様なニーズに対応し、新たな賑わい創出に資する道路空間利活用に関する有益な知見を得ること、道路空間に時間帯別の運用を加えた新たな道路空間利活用方策の必要性を明らかにすることを目的として実施した。

2. 実験内容、実験結果

【主な実験内容（右図参照）】
①道路空間再構築
②沿道店舗等との連携による賑わい創出
③道路空間のタイムシェア
④自転車対策

【主な実験結果】
〇得られた成果
・歩行者交通量の増加
・道路空間のタイムシェアによる配送作業の効率化
・自転車の車道走行率の向上

〇明らかになった課題
・一時的な渋滞の発生および周辺エリアにおける路上駐車の増加
・賑わいづくりに向けた担い手や運営・維持管理等を含めた持続可能な仕組みの構築

実験内容（西3丁目区間）

⑧【複数年度（2年目）】多様なニーズに対応し、新たな賑わい創出に資する道路空間利活用の社会実験（北海道札幌市）

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
本実験内容を検証するには1週間の実験では短いのではないか。期間を伸ばし複数パターンの検討を提案する。 歩道部の安全性向上にむけ、車道に自転車の通行空間を確保してはどうか。また、実験区間のシェアサイクルポートも車道向きが望ましい。 現地を見るとタクシーの停車状況は課題。課題解決に向け、実験区間のタクシーの客待ちを抑制した場合、周辺への影響把握も必要。	実験期間を2週間とし、タクシー客待ち車両の有無、自転車の通行空間確保を考慮した複数のパターンについて実験を通じ検証を行った。
効果計測について、アンケートや現地でのカウント調査だけではなく画像処理やGPS機能、ICT技術などの活用も検討してほしい。	効果計測の中でビッグデータ（ETC2.0プローブデータ）を活用した分析を実施。
歩道の車道側における食事施設等の占用について、車両通行による食事施設等の利用者の安全性への影響（体感を含む。）を検証されたい。	本実験で創出する歩道上の滞在空間（パークレット等）の利用者に対して、周辺を通行する車両の影響、安全性評価についてのアンケート調査を実施。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
車線の削減により朝の通勤時間帯を中心に一時的な渋滞や周辺エリアの路上駐車が増加。	今回の実験を通じて得られた左記課題を踏まえ沿道事業者や運輸事業者、関係行政機関等が連携して交通課題の解決と賑わい創出に向けた検討を継続し必要に応じて調査取組を実施。 周辺の中通等の活用等も視野に入れたエリア全体での荷さばきスペース、運用の検討が必要。 都心全体の交通や道路空間の状況も踏まえ都心商業エリアの顔として、賑わいや憩いの魅力溢れる南一条通の在り方を検討。
恒常的な賑わいづくりに向けた担い手や運営・維持管理等を含めた持続可能な仕組みが必要。	

5. 今後のスケジュール

- R5～R6年度　都心全体の交通や道路空間の状況も踏まえ都心商業エリアの顔として、賑わいや憩いの魅力溢れる南一条通の在り方の検討を進めるとともに、中通りにおける賑わい空間創出や荷捌きの整序化を目的とした社会実験を実施
- R7年度以降　本実験及びR5～R6年度に実施予定の実証実験の結果を踏まえ、南一条通や中通りの魅力化に向けた持続的な取り組み

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 西3丁目南側エリアは、実験区間のなかで最も歩行者数が多くにぎわい創出が図られたエリア。当該エリアについてはパークレットの整備、キッチンカーの配置等の成功ポイントが有り、これを参考に今後の空間デザイン、運用を今後検討していく必要がある。
- 持続可能なまちの実現を目指し、今後は一次占用者＝エリマネ団体または商店街が主体となり、二次占用者を選定する運用について、地元商店街組合員・沿道店舗等の多様な参加、持続可能なサポート役を担う組織の増加等を踏まえる必要がある。